

1. 単元名 自分の読みを色にのせて！

創造的実践力の素地を養う物語の学習
～「表現のしくみ」を蓄積するための焦点化教材の開発～

教材 「モチモチの木」 焦点化教材として「お手紙」「花いっぱいになあれ」

2. 単元設定の理由

(1) 単元について

低学年では、「同化して登場人物になる」ことを大切にして、物語を読んでいる。中学年では、低学年の同化から一歩踏み込んで、「やや離れて登場人物を見る」ことを大切にしている。6月にはファンタジー教材を読み、物語を俯瞰して読むことにも取り組んできた。その一方、なかなか物語に入りきらず、文章からイメージするのが苦手な児童もいる。

通常それぞれの児童が文章からどのようなイメージをもっているかを見取することは難しい。本単元では「児童の見取り」に焦点をおき、「焦点化教材」を活用した。まず、単元の最初に「お手紙」の教材で各児童がどの程度文章からイメージできているのかを把握する。ここでは最初と最後の場面を「色」という観点で文章から感じたことを塗ってみる。その後、「モチモチの木」を使い、各場面を読んでいく。

「モチモチの木」は、豆太の成長を描いている物語である。豆太は、夜のモチモチの木がこわい弱虫という設定である。豆太のモチモチの木に対する怖さを夜の闇の怖さで表現されている。その後、じさまのはらいたという事件がおこり、それを解決するために、豆太は必死で夜の中を走っている。そして、「やさしさあれば、やらなきやならねえことは、きっとやるもんだ」といわれるほどの勇気をみせ、モチモチの木が光るところがみることでできた。しかし、じさまが元気になると、またしょんべんに起こすという、おもしろさもある。

このお話は3年生の児童が同化して共感しやすい内容となっている。そして、少し離れたところからみると、場面の明暗が豆太の心情を表しており、そこから各場面をしっかりと想像することを児童に行ってもらいたい。そこで、明暗の「色」をつけるという活動を通して、最初と最後の場面に色づけをし、豆太の変化にも気づく活動を行う。

(2) 単元の目標

- 「場面の色」について考えることができる。【関心・意欲・態度】
- 叙述を基に想像したことを友だちと交流することで、物語のおもしろさに気付くことができる。【読むこと】
- 物語には主人公の様子を表す言葉があることに気付くことができる。【言語に関する知識・理解・技能】

(3) 活動構成の仮説

仮説 焦点化教材を扱うことにより、児童が文章から受け取るイメージを客観し、指導に活かすことができる。

通常児童がどのようなイメージをもっているかを把握することは困難である。今回は「色をぬる」という活動を行うことにより、児童の表象していることを把握する。

モチモチの木の最初と最後はどちらもせっちゃんにいけないので、「豆太はかわっていない」と考える児童もいると思われる。そこで、今回は「お手紙」の最初と最後の場面に色づけをし、がまくんの心情変化を表現し、把握する。そして、焦点化教材での活動を活かして、「モチモチの木」でも豆太の変化を「色づけ」を行って考える。

このように、焦点化教材を使って児童がどのようなことを頭の中に描いているかを教師がつかむことにより、指導に活かしていくことができると考える。

3. 単元計画 全9時間（5時間／10時間）

学習活動の流れと子どもたちの意識の流れ	指導上の留意点	評価
<p>学習の流れをつかむ</p> <p>「お手紙」を読み、感じたことを言葉や絵を使って「色」を中心にまとめる。（3時間）</p> <p>最初と最後は同じような絵があるね。</p> <p>最初と最後では、がまくんの気持ちには変化しているよ。</p> <p>ハリネズミの金貨でも色が大切だったね。</p> <p>こんは、ひまわりが金色にみえたのには理由があるのかな。</p>	<p>学習の見通しをもつ→教材と出合う。出会い方は、物語「はりねずみの金貨」を復習し、「金色」にも意味があったことを思い出し、読んでいく。</p> <p>・最初と最後の場面からイメージすることを、色を使って表現していく。（お手紙）</p> <p>・「ひまわり」の色をぬり、金色の意味について考える。（花いっぱいこなあれ）</p> <p>・各物語で出来事もおさえ、そこから思い描いたことを「色」にぬっていくことを、声かすする。</p>	<p>主体的な能力【関心・意欲・態度】</p> <p>□ワークシートに描かれた絵（色）について評価する。</p> <p>※このとき、絵からイメージできていない児童を把握しておき、「モチモチの木」の学習で補助を行うようにする。</p>
<p>「モチモチの木」を読んで感じたことを、色を使って表現していこう！（本時2／5）</p> <p>○各場面の「色」を決め、なぜその色にしたかを交流する。（本時）</p> <p>夜の場面はこわいから「暗い」色かな。</p> <p>○モチモチの木が光ったときの様子を、自分の考えをこめて色をぬる。</p> <p>「花いっぱいこなあれ」でも、金色に意味があったよな。</p> <p>豆太のがんばったからモチモチの木が光っているよね。</p> <p>○「なぜ豆太はモチモチの木をみることができたか？」について考える。</p> <p>おじいさんのために、勇気を出したからみれたんだよ。</p> <p>最後はやっぱりもどに戻ってるのかな？</p>	<p>・中心課題「なぜ豆太はモチモチの木をみることができたのか？」</p> <p>①最初と最後の場面の違いを色で表してみる。</p> <p>・「お手紙」のときと同じように文章を読み、感じたこと絵を使って表現していく。</p> <p>・なぜ「暗い色」と思ったのか、の理由も考えるようにし、そのあとの交流に活かしていく。</p> <p>②モチモチの木の色について考える。</p> <p>・豆太がみた「光っているモチモチの木」の色を塗る。</p> <p>・なぜ、そのような色にしたのかを、交流する。</p> <p>③中心課題について考える。</p> <p>①②で学習したことを活かし、中心課題を考える。</p>	<p>主体的な能力【関心・意欲・態度】 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○モチモチの木をみることができた理由を考えようとしている。</p> <p>協働的な能力【関心・意欲・態度】 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○記述を基に想像したことを友だちと交流することで、モチモチの木をみることができたことについて交流することができる。</p> <p>▲交流することができない。</p> <p>◇教材文に立ち返らせ、自分なりの意味を見出せるように声掛けをおこなっていく。</p> <p>言葉に関する知識・理解・技能</p> <p>□授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○文中にでてきた言葉を意識することにより、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。</p>
<p>各場面についている見出しを見つめる。（1時間）</p> <p>○各場面に書かれている見出しを見つめる。</p> <p>豆太について書かれていることが違っているね。</p>	<p>最初「おくびよ豆太」とかかれていたものが、最後は「弱虫でもやさしげりゃ」に変わっていることに着目させる。</p>	<p>協働的な能力【関心・意欲・態度】 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言を評価する。</p> <p>○最初と最後で見出しが違っていることを、本文の内容を考えながら交流することができる。</p>
<p>「モチモチの木」を読んで感じたことをまとめる（1時間）</p> <p>活用教材 「モチモチの木」を読んで感じたことをまとめる。</p> <p>モチモチの木をみたときの豆太は勇気があったよ。</p> <p>モチモチの木をみたときは明るい感じがするね。</p>	<p>○単元を通して学習したことや感想をまとめていく。</p> <p>・このとき「物語の設計図」を使いながら、まとめていく。</p>	<p>主体的な能力【関心・意欲・態度】 □授業中のノート・ワークシートへの記述や発言、意見を書こうとする姿勢を評価する。</p> <p>○前時までに学習したことを活かしながら、自分の意見をまとめることができる。</p> <p>□…評価の方法 ○…満足できる姿 ▲…支援を要する姿 ◇…支援の方法</p>

言語活動

自律的学習
課題
準備

注